

学校法人 青山学院
2012年度 事業計画書



学校法人 青山学院

(2012年3月23日 理事会承認)

目次

2012年度 事業計画書作成にあたって	2
2012年度 学校法人青山学院事業計画 基本方針	3
I. 人間教育の再創造	
1. キリスト教教育の促進	4
2. 教育力の向上	5
3. 一貫教育の充実	
1) 各設置学校間の連携強化	5
2) 4-4-4 制英語一貫教育の実践	6
4. 国際交流の活性化	6
II. 環境の整備	
1. キャンパスの再開発	
1) 教育課程移行に伴うキャンパスの整備	7
2) 新図書館棟の建築	7
3) 高等部校舎の建て替え	7
4) 中等部校舎の建て替え	7
5) 既存施設の整備	8
2. 学生への支援	
1) 進路・就職への支援	8
2) 経済的支援体制の確立	9
3) ボランティア活動の支援	9
3. 教職員への支援	9
4. 学院史編纂への取り組み	9
III. 戦略の強化	
1. 危機管理	
1) 大災害対策	10
2) コンプライアンスの体制の充実	10
2. 校友との連携強化	10
3. 組織・体制の強化	
1) 広報体制の強化	11
2) 入試広報体制の強化	12
3) 企画立案機能の強化	12
4) 事務組織の再編	13
5) 情報系の整備	13
6) 人事制度の見直し	13
(巻末)2012年度事業計画一覧	14

2012 年度 事業計画書作成にあたって

1874(明治7)年に米国のメソジスト監督教会の信仰と祈りをもって派遣された宣教師たちにより始められた青山学院は、2012年に創立138周年を迎え、「キリスト教信仰にもとづく教育」という創立当初からの理念のもと、常により良い教育を目指してきた先達たちの努力によって、幼稚園から大学・大学院までを擁する日本有数の教育機関に成長いたしました。しかし、昨今、私立学校を取り巻く環境は、長引く経済の低迷、国際的な競争の激化、少子高齢化等、かつてない厳しい状況が続いており、青山学院がおかれている環境変化も例外ではありません。また、昨年3月に未曾有の大災害をもたらした東日本大震災の爪痕もいまだ消えることなく、被災地では厳しい状況下に置かれている現状があります。青山学院では、被災者の皆様へ心からのお見舞いを申し上げ、引き続き、でき得る限りの支援を継続すると共に、今後更に厳しくなる状況に対応すべく、経営基盤の維持・強化を図りながら質の高い教育・研究活動を目指してまいります。なお、震災の影響に伴う建築資材の調達困難や電力事情等により、建築中の大学17号館の工事の遅延が発生したことで、相模原キャンパスに学んでいる学生のうち、人文・社会科学系6学部(文学部、教育人間科学部、経済学部、法学部、経営学部、国際政治経済学部)の1,2年生、及び総合文化政策学部の1年生、計約7,000人を青山キャンパスに移行する「就学キャンパス再配置」の計画を、本来の2012年度から1年延期せざるを得ないという予想外の状況となったことについては、不可抗力とは言え大変残念な結果ではありますが、この与えられた1年間の準備期間を最大限活かし、より万全な体制を整えた上で2013年度を迎える所存です。

これまでも青山学院では、2009年度よりキリスト教信仰にもとづく建学の精神のもと、「人間教育の再創造」「環境の整備」「戦略の強化」を三つの柱とした174項目の課題を掲げ、各設置学校・各事務部署と共に事業計画として取り組んでまいりました。2011年度末で丸3年が経過いたしました。課題の取り組み全体につきましては、掲げた項目の大半について何らかの形で着手され、PDCAサイクルに則った取り組み体制も定着する等、一定の成果を確認することができました。そこで、2012年度からは、これまでの課題の取り組みに替わり、各設置学校・各事務部署が長期計画・中期計画・事業計画を自主的に策定することとし、取り組み方法を変更しました。新たな取り組みの下においても、学院全体で事業計画の進捗と結果を確認する体制は継続し、PDCAサイクルを意識した上で、更なる改善と発展につなげてまいります。具体的な内容については、本計画書に記載されておりますのでご確認ください。

なお、本計画書の中には、幼稚園から大学・大学院までの各設置学校及び各事務部署が策定した2012年度事業計画の中から、「2012年度 学校法人青山学院事業計画 基本方針」に合致する計画を中心に掲載しておりますが、主要なテーマにつきましては、定例業務として見直しや改善を行いながら毎年実施されているものも含まれていますのでご注意ください。

引き続き2012年度も教職員一丸となって事業計画の実現に邁進してまいりますので、ご支援・ご協力くださいますようお願い申し上げます。

2012年度 学校法人青山学院事業計画 基本方針

- ◆ 教育の基本となるキリスト教について、学院に関わる一人ひとりの理解を深め、各設置学校が掲げる教育理念にもとづいた教育の実現を図る

- ◆ 国際理解教育を充実させる

- ◆ 青山キャンパスの再開発を着実に推進する

- ◆ 景気の低迷や震災の影響等に直面する学生への支援(経済支援、進路・就職支援等)を強化する

- ◆ 「キャンパスの安全・安心」を第一に、災害対策を主とした危機管理の強化を図る

- ◆ 大学における2013年度キャンパス再配置に向けた準備を着実にを行う

- ◆ 学院発展のため、組織・体制の強化を図る

I. 人間教育の再創造

1. キリスト教教育の促進

建学の精神の根幹を成すキリスト教教育の促進のため、各設置学校ならびに学院では、園児・児童・生徒・学生そして保護者、教職員がキリスト教に触れ、親しむ機会を増やしていただけるような取り組みを続けています。大学における「キリスト教学校へ教員として就任する者のための教育プログラム(スーパープログラム)」、女子短期大学における「新入生へのチャペルオリエンテーション」、中等部における「高齢者福祉施設訪問等のCF(クリスチャンフェローシップ)活動」、初等部における「クリスマス讃美礼拝」「イースター礼拝」等、既に実施している取り組みについては更なる充実を図ると共に、2012年度の事業計画としては、新たに下記の取り組みを進めます。

【学院】

- ・青山学院第2代院長で、日本人としては初めての院長として大きな功績を残した本多庸一先生の召天後100周年の記念行事が実施されます。行事をとおして、本多庸一先生のキリスト教信仰、功績、教育観、世界観等を青山学院に連なる教職員と広く共有すると共に、礼拝、シンポジウム、パネル展、コンサート等の行事や書籍の発刊等を行っていきます。
- ・青山学院も加盟しているIAMSCU(国際メソジスト関係学校・大学連盟)の理事会及び日本のメソジスト関係学校会議を本学において開催し、メソジストの信仰に立つ学校同士が教育的課題や諸問題を共有することで、相互の研究・教育の充実と向上を図ります。また、これを機に、海外のメソジスト関係学校とのネットワークを強化し、国際交流の活性化につなげていきます。

【高等部】

- ・本学高等部生との交流が、被災地宮古高校の生徒の皆さんへの「復興への励まし」に少しでもつながること、また被災地を訪問し災害の爪痕が残る状況を目のあたりにした高等部生たち自身が、キリスト教教育の「助けを必要とする人の隣人となる」という聖書の教えを実践的に捉え、一人ひとりにとって大きな学びとなることを期待し、2012年度は宮古高校の生徒会執行部を高等部文化祭へ招待するほか、ラグビー部が先方のラグビー部との交流試合を行うため、宮古高校を訪問します。
- ・キリスト教教育の観点から、世界の問題、特に貧困の問題について考える機会を持つことは、豊かな心と広い視野を持つ人物の育成に大変重要な役割を担うものと考えます。初等部、中等部、大学に続き、高等部生徒についてもCFJ(チャイルド・ファンド・ジャパン)フィリピン訪問プログラムへ2013年3月より参加できるよう準備を進め、学院の一貫制宗教教育プログラムとして強化していきます。

【幼稚園】

キリスト教信仰を基底とした保育を行う上で、保育者のキリスト教への信仰や理解の涵養は大切なことであり、神様の恵みに立って園児との関わりを豊かなものにするを念頭に、教員を対象とした聖書研究や祈祷会を行います。

2. 教育力の向上

青山学院が目指すキリスト教を基盤とした教育と、社会・時代の要請に応えていける教育力を各設置学校が充実・堅持していくために、下記の具体的な取り組みを計画しています。

【学院】

少子化等により、大学を取り巻く環境はますます厳しいものになっていますが、青山学院では大学へ進学する優秀な人材を早期に確保する必要があるため、新たな教育体制の確立を視野に近隣県における高等学校設立に向けた実施計画検討委員会を設置し、具体的な実施計画の策定を検討していきます。

【大学】

- ・国際社会で活躍するにあたり、各専門分野における英語能力がより一層求められている状況を受け、本学の学部、研究科等における授業開発の促進と専門性に対応した英語力の養成・向上を目的とする英語力向上プログラムの学内支援制度実施に向けての調査研究を実施します。2012年度は学内外の英語教育システムについて、専門分野別の調査を行います。
- ・渋谷・青山・表参道に立地する本学の特色を活かし、教育・研究機関としてはもとより、一層社会に開かれた生涯教育の場として社会貢献等も視野に置いての取り組みを実践していきます。2009年度より開校した「青学オープンカレッジ」については、本来の目的を効果的に実現できるよう、運営体制を見直します。

【女子短期大学】

女子短大では、2012年度より、子ども学科と現代教養学科の2学科体制がスタートしました。この2学科体制をより充実させるため、卒業後、それぞれの専攻分野について更に深く掘り下げた研究を1年間行う場として、専攻科の設置に向け準備を進めていきます。

3. 一貫教育の充実

青山学院では、青山キャンパスに幼稚園から大学・大学院までを擁する特性を最大限に活かし、一貫した「青山学院教育方針」のもと、「キリスト教教育」「英語教育」「国際交流」等を主な柱とした、学校の枠を超えた連携教育に力を入れます。2012年度は下記の取り組みについて推進します。

1) 各設置学校間の連携強化

【女子短期大学】

高等教育として短大・大学を併せ持つ総合学園であるという特色を活かし、女子短期大学には、セカンドステージへの重要な選択肢の一つとして大学への推薦編入という道が開かれています。大学との連携を強化し、推薦編入制度をより円滑に推進していくため、大学との単位互換制度実施について検討を行います。

【大学・高等部】

高大の連携強化の更なる促進を目指し、大学の教員による高等部生を対象とした「学問入門講座」に加え、高等部生が大学の授業へ参加できるようなシステムを構築するための具体的な検討を進めていきます。

2) 4-4-4 制英語一貫教育の実践

【高等部・中等部・初等部】

2008年度より、青山学院では初等部から高等部の12年を4年毎3期に分けた英語教育を実践しています。「英語の青山」の特色をより一層明確にした質の高い授業の実施と円滑な連携を可能としているこの取り組みについて、2012年度は、2013年度に第3期2学年となる高等部1年生が使用するBOOK10を高等部が作成します。

4. 国際交流の活性化

米国のメソジスト監督教会の祈りと援助から誕生した本学にとって、国際交流は長きにわたり教育の重要な柱の一つとなっています。本学には世界的に著名な教員や国際的にも活躍できる資質を持った学生が多数存在していることから、今後、その能力を学内で組織的に発揮できるような環境の整備を進めていくことにより、教育研究面での国際化の強化・充実を図っていきます。2012年度については、国際交流の更なる活性化を図り、グローバルな人材の育成を目指すことに注力し、下記の取り組みを行います。

【大学】

- ・大学院生の留学は、より高度な知識と広い視野を持ったグローバルな人材の育成だけではなく、本学への外国人留学生の増加にもつながることから、JASSO（日本学生支援機構）等各団体が国内外で実施する留学相談会への参加を通じて、大学院留学生増大のための広報活動を強化します。
- ・大学主催の語学研修は、学生にとって長期派遣交換留学への動機付けになると共に、グローバルに活躍できる人材の育成にもつながることから、英語による語学研修の実施を増やしていきます。2012年度は米国、英国、スペイン、韓国、台湾、タイ等へのプログラムを計画しています。

【高等部】

「価値観の多様性(diversity)の共有」を目指す高等部の国際交流の新たな取り組みとして、イギリスのリーススクール及びイタリアパスカル校との短期交換留学等に続き、2012年度は、世界的にも有名な伝統ある英国のパブリックスクールであるイートン校との交流を深めていきます。イートン校生徒の高等部生宅へのホームステイ受け入れに続き、夏休みには高等部生がイートン校での寮生活を体験することにより、生活様式や文化の異なる国々の生徒との交流をとおして多様な価値観の共有を実践していきます。

Ⅱ. 環境の整備

1. キャンパスの再開発

青山学院は、50 年後、100 年後を見据えた 21 世紀の青山学院のあるべき姿を模索し、「伝統と未来が出会う、緑と文化溢れる空間」「安全・安心な教育環境」「サステナブル(持続可能)なキャンパス運営体制」という 3 つの方針のもと魅力と特色ある総合学園を可能にするため、青山キャンパスの再開発事業を進めています。2012 年度は、2013 年度からの就学キャンパス再配置に関する着実な準備を行うことを最優先し、下記の取り組みを実施します。

1) 教育課程移行に伴うキャンパスの整備

【大学】

2013 年度の就学キャンパス移行に伴い、約 7,000 名が増加する青山キャンパスに於いては、既存建物、設備の大幅な改修を行うと共に、グループ学習用のスペースを新たに設ける等快適な学生生活を送れる環境を 2012 年度中に整備します。

また、相模原キャンパスでは、その環境特性を活かし、現代社会の様々な問題をグローバルな視点で解決する人材を育てる新設学部構想を検討する等、新たな教育体制の構築を目指します。

2) 新図書館棟の建築

【法人】

大学17号館建築に続き、教育環境の整備を目的とした青山キャンパス再開発としては、新図書館の建築を計画し、2012 年度は基本設計及び実施設計を決定します。この計画の中では、学習図書館棟の構築を通じて、文科省から求められている「単位の実質化(授業と授業外学修の一体化の取り組みによる単位認定)」の実現を目指していきます。

3) 高等部校舎の建て替え

【高等部】

2012 年度は、校舎建て替え工事の第Ⅲ期(2012 年 4 月～2014 年 12 月)として旧 PS 講堂・東 B 校舎・南校舎の解体工事、体育館を建築します。その間の校内及び校舎のセキュリティ対策や安全管理は、2011 年度に作成した「使用する入り口の施錠や警備等の運用体制」により行うと共に、新校舎完成後のセキュリティ対策と運用体制についても検討を開始します。

4) 中等部校舎の建て替え

【中等部】

中等部校舎の老朽化に伴い、学習環境、安全性の向上を図るため、また 32 名クラス制の全学年完全実施のための新校舎の建て替えに向けた準備を行います。2012 年度は、校舎建築準備委員会にて、他校調査の結果を参考に新校舎の施設・設備について検討した上で、建築コンセプトを決定します。

5) 既存設備の整備

【中等部】

夏季期間における猛暑対策として、生徒や教職員の体調管理を重視し、熱中症を予防するための対策を講じることとしました。授業の他、放課後にダンスや卓球、武道系のクラブ等が活動の場としている南校舎2階のプレイルームへ新たに空調設備を導入し、事故の防止を心がけていきます。

【幼稚園】

保育における園児の安全確保は、保育する側が最も重視しなくてはならないことです。幼稚園では将来的に園舎の建て替えを計画していますが、それまでの期間を要して、計画的・段階的な施設の整備を行っていきます。2012年度は、園舎内の老朽化した箇所の洗い出しや動線の見直し等を行い、管理部と協働で改修箇所の確定や優先順位決めを行い、数年間の工事計画を確定していきます。

2. 学生への支援

厳しい社会状況に直面する学生が安心して学業に励み、将来を考えることができる環境を整備するため、下記の計画を中心に学生支援を続けていきます。また、従来より大学、女子短期大学、高等部、中等部では、社会奉仕への意志を持つ学生・生徒に対し、ボランティアの機会を提供していますが、2012年度は大学において更なる充実を図ります。

1) 進路・就職への支援

【大学】

- ・学生の職業的自立への意識を、大学入学時の早い段階から育成し、就業力の向上を促すために、2011年度より全学共通教育システム「青山スタンダード」教育において「キャリアの技能」領域を新設し、従来実施していた就業力につながる科目を集約することで、キャリアデザインに関するカリキュラム体系を構築しましたが、2012年度は科目の拡充により更なる強化を図っていきます。
- ・入学から卒業・就職までの4年間を通じて、学生の自立的成長を促すような多面的な支援体制を構築する必要があることから、各学年ごとに学生意識調査を実施します。調査結果は、大学として蓄積し分析するだけでなく、学生個人へフィードバックすると共に、フォローアップ講座を開催し、初年次から自らのキャリアデザインを意識した学生生活を送れるようサポートします。
- ・厳しい就職状況により、学生からの進路・就職に関する相談需要が増えていることから、専任職員の他にキャリアカウンセラーを増員し、個別相談体制の強化を図ります。

【女子短期大学】

従来より女子短大で実施されている進路・就職支援行事と、新学科(現代教養学科)における「キャリア・ライフ・デザイン(CLD)科目」との連携を図り、継続的で手厚い就職支援・進路指導の実現を目指します。

2) 経済的支援体制の確立

【大学】

一般入試の成績上位合格者に対し、在学中の経済的支援体制を確立することは、本学への入学者の質的向上につながり、結果的に大学全体の学力水準を高め、研究分野の充実や学生全体の士気を高める効果が期待できます。この制度を実現するため、2012年度は一般入試合格者の手続き状況調査や他大学調査を実施し、調査結果をもとに検討を重ね、2014年入試からの導入を目指しています。

【初等部】

日本経済全体が厳しい状況下にある中、学費等の経済的負担が大きくなっています。保護者に対し、何らかの経済的支援を目的とした初等部独自の奨学金制度の確立を検討していきます。

3) ボランティア活動の支援

【大学】

社会に奉仕したいという思いを持つ学生に対し、社会のニーズに合ったボランティア活動を行う支援をするために、2011年5月に「ボランティアステーション」を発足しました。その組織と活動を強化すると共に、大規模災害の被災地におけるボランティアだけでなく、地域貢献等広い意味でのボランティア活動を視野に入れ大学として支援していきます。

3. 教職員への支援

青山学院が更なる発展を遂げる意味からも教職員の資質向上は重要な役割を担います。

2012年度は教職員の資質向上に向けた下記の取り組みを行っていきます。

【法人】

教職員の育成とモチベーション向上を図るため、表彰制度の要項案を作成し、実施に向けて準備していきます。

【初等部】

教員の意識改革を図り教育力の向上につなげるため、他校との交流や外部機関における研修の実施を強化します。2012年度は、日本私立初等学校東京地区研修会の会場校として、東京地区私立小学校教員約1,400名を招き、授業研究や指導方法を教授し合うほか、教員のリーダーシップ向上プログラムの実施や、横浜の公立小学校の研究授業への参加を通じて、教員としての資質向上を図ります。

4. 学院史編纂への取り組み

1874年の創立以来、キリスト教信仰にもとづく「建学の精神」により、一貫する「青山学院教育方針」を持って、発展してきた青山学院の歴史を広く社会へ周知することは、学院への理解と関心を高め、ひいては学院の更なる発展にもつながることから、2012年度より学院150年史編纂に向けた準備を行います。

【学院】

2024年に青山学院は創立150周年を迎えます。その記念事業の一環として「青山学院150年史」(仮称)発刊を予定していますが、2012年度は第一段階として、150年史編纂委員会を立ち上げると共に具体的な編纂計画の立案を行っていきます。

Ⅲ. 戦略の強化

1. 危機管理

東日本大震災の教訓をふまえ、各学校では、大災害時における園児・児童・生徒・学生及び教職員の安全確保への取り組みを強化していますが、2012年度は新たに下記の取り組みを行います。また、コンプライアンスに基づいた危機管理への取り組みも継続して行っています。

1) 大災害対策

【法人】

地震発生時の学生や教職員の安全を確保するため、すでに幼稚園から高等部まで設置されている「緊急地震速報」を大学と短大においても2012年9月の設置完了を目指し、導入します。

【大学】

災害発生時に、学生や教職員等を誘導し、安全な場所へと避難させる体制を強化するため、新たに設置された「防災対策検討委員会」において、「災害時対応マニュアル」を作成します。

【女子短期大学】

災害発生時に速やかに安全確保や適切な判断にもとづく行動がとれるよう、昨年度、学生・教職員が一体となった避難訓練を実施しました。2012年度は、その経験をふまえて訓練内容の充実を図ると共に、可能であれば規模を拡大し、実施する予定です。

2) コンプライアンスの体制の充実

【法人】

青山学院では、「学校法人青山学院個人情報保護に関する規則」「学校法人青山学院個人情報の保護に関する規則施行細則」等個人情報の取扱いを定める規則等を制定し、その保護に努めています。2012年度は、法人各事務部署で保有している個人情報を調査し、個人情報取扱いガイドラインの作成を予定する等、個人情報保護の体制を強化します。

2. 校友との連携強化

校友からの財政支援や学生・生徒との関わりをとおしての支援は、今後も学院の発展には欠くことのできない貴重なサポート体制と捉えています。2012年度についても下記の事業計画により連携を強化します。

【学院】

- ・設立以来20年の歴史を数える青山学院維持協力会は、長きにわたり会員の皆様のご支援をいただいておりますが、2010年度より青山学院エバーグリーン募金の一つとしてご協力をいただくこととなりました。2012年度は維持協力会第四期の募集が開始となる年のため、会の存在や目的をより校友の皆様にご理解いただける施策を策定し、校友会との連携を図り、会員の増加につなげていきます。
- ・地方で行われる「大学後援会」事業活動の一環であるペアレンツウィークエンドに、卒業後に地元で就職した校友や校友が関係する地元企業が参加することにより、保護者への校友会支部の認知度を上げると共に学院に対する信頼感や親近感が増すことにもつなげていきます。また、学生のUターン就職の支援としても有意義な活動としていくため、今後も各校友会支部と連携し、校友の積極的な参加を促します。

- ・校友の母校に対する関心を喚起し、愛校心の育成につなげるためには、学院に関する充実した情報を効果的な媒体を用いてタイムリーに届けることが必要です。そのために、2012年度は学院と校友を繋ぐツールである広報紙「あなたと青山学院」と校友会ホームページの機能をより明確に分化することとし、広報紙は一度に多くの情報をお届けするため発行回数を減らして紙面の充実を図ること、また校友会ホームページは、情報をいち早くお届けするためにタイムリーな更新を行うことを目指し、校友会を支援していきます。

【女子短期大学】

女子短大では、卒業生や退職教職員をお迎えし、各学科順番に毎年ホームカミングデーを実施していますが、同窓会との連携を更に強化し、卒業生の新たな愛校心発露の場とするため、ジュビリー制度導入の検討を行います。

【中等部】

- ・生徒の職業観や勤労観の育成を図り、生徒個人が主体的に進路を選択する能力を育てるキャリア教育の一環として、各界で活躍する卒業生の経験談・体験談を主とした講演会を行っています。
- ・卒業生と中等部在校生の絆を深めるためにも、相互の交流の場は貴重な機会となります。今年の6月上旬に予定されている「緑窓会(中等部同窓会)の日」はそのような交流を深める日として位置づけ、生徒たちによる各種発表(聖歌隊・ハンドベル部、吹奏楽部)を行います。生徒たちが卒業生の前で日頃の努力の成果を披露することは、生徒たちの意欲と成長を促すだけでなく、卒業生自身の愛校心のより一層の醸成にもつながることが期待されます。

【初等部】

初等部では卒業生と初等部児童の連携を深めるために、2012年度「くすのき会」(初等部同窓会)主催の卒業生による「出張授業」を行う予定です。児童にとって卒業生の話は、様々な分野への興味の喚起や将来の夢の動機づけとなる教育的な効果が期待でき、また講演する側の卒業生にとって、自らの学び舎にかえて後輩たちに直に接することにより、愛校心の更なる深まりを実感する貴重な機会になることが期待されます。

3. 組織・体制の強化

長きにわたり多くの先人が築いてきた学院の伝統を守りつつ、学校を取り巻く環境の変化に対応し、青山学院の新しい時代を確立するために、さまざまな角度から組織・体制の強化、整備に取り組んでいきます。

1) 広報体制の強化

【大学】

- ・大学は、ステークホルダーや社会に対して、大学の有する基本情報や学問研究の成果等を発信して社会に貢献する使命を担っています。そのためには、学内への情報収集機能を強化し、収集した情報を精査し、「受け手」が必要とする情報のタイムリーな提供が可能となる仕組みを構築していきます。こうした情報開示の体制により、本学に対する社会の期待や信頼が高まることに繋がっていきます。
- ・大学の情報開示において、教員や研究成果に関する情報の開示は特に重要視されていることから、「研究者情報データベース」への更新システムについて検討を行い、閲覧者にとってより利便性の高い公開ルールを適用し、教員がより効率的に自身の情報を更新できる仕組みを構築することで、掲載内容の充実を図ります。

- ・入学志望者および海外からの留学希望者への効果的な学校情報を提供するため、大学案内の内容を見直すと共に、英語による公式ホームページのリニューアルを行っていきます。

【高等部】

帰国生の入学は、高等部生徒の国際理解の育成や価値観の多様性の共有を促す等、様々な相乗効果が見込まれることから、アジアを中心とした日本人学校を訪問し、青山学院高等部の学校説明会を積極的に行う等、広報入試担当教員による広報活動を強化します。

2012年度は新たに中国(上海・大連)、台湾(台北)での広報活動も展開していきます。

【中等部】

少子化による受験生減少傾向は私立学校が抱える問題であり、そうした状況下で鍵を握るのが広報戦略と考えています。中等部ではHPによって、タイムリーな情報発信を行い、3種類の紙媒体による資料を作成していますが、これらへのなお一層の改良を加えると同時に2012年度は学校紹介DVDの作成を大きく見直し、大学の総合文化政策学部と連携し、撮影から編集まで同学部の教員と学生の協力を得て作成していくことを考えています。中等部生にとっては身近なところで学生の活動を知ることにより、将来へのモチベーションの向上が期待でき、中大の連携が形となって現れることによって、保護者・受験生の興味を引くことにも期待が寄せられます。

【初等部】

初等部では、様々な広報活動を展開していますが、2012年度は紙媒体の「初等部便り」を発刊します。紙媒体の冊子にすることにより、「誰でも気軽に手にし」「誰の目にも留まる」ことを目標にし、このような形で広く行き渡った初等部情報によって、児童及び保護者の愛校心の育成や卒業生の帰属意識強化を目指します。また、発刊後には保護者へのアンケートを実施し、内容の更なる充実を図っていきます。

2) 入試広報体制の強化

【大学】

- ・2013年度の就学キャンパス再配置は、相模原キャンパスへのアクセスがネックとなっていた地域の受験生に本学をアピールする好機となることから、関東近県の青山キャンパスへの通学可能地域を中心とした入試広報活動を強化します。
- ・入試制度の多様化は入学生の多様性にも結びつく一方で、入学志望者にとって「わかりづらさ」や「負担」となっている面もあることから、一般入試における方式や出題等を中心に制度の簡素化を図ります。

3) 企画立案機能の強化

【大学】

大学執行部による「より効率的で戦略的な大学運営や意思決定を行う」ために、大学内外に関する諸データを収集・分析し、将来構想を企画・立案する機能の強化を図ります。

4) 事務組織の再編

【法人】

業務効率化の実現に向けて、業務に内在する非効率要素の所在を明らかにするために、問題点の洗い出しと検証を実施すると共に、印刷環境の最適化に取り組みます。

また、業務効率・コストの改善をふまえた事務組織再編の一環として、2012年度は、2013年度からの就学キャンパス再配置に備えた大学事務組織の改編を行います。

5) 情報系の整備

【学院・大学】

青山学院の教育・研究活動に寄与するICT環境の提供のみならず、ICTを活用した教育の質向上、研究の推進を行うための様々なサービスを提供できる組織を実現するため、情報系組織の再編を行い、2013年4月に向けた新組織「情報メディアセンター(仮称)」の開設準備を行います。

「情報メディアセンター(仮称)」を開設することで、ワンストップサービスの提供が可能となり情報環境利用者(学生・教職員)の利便性の向上が図れると共に、よりの確に利用者のニーズを把握した新教育研究システムの導入等や、パソコンとWEBの基礎を習得する全学部共通の必修科目「情報スキルⅠ」や、「情報スキルⅡ」の開講が、就学キャンパス再配置後の青山キャンパスにおいても可能となります。

6) 人事制度の見直し

【法人】

- ・人的資源の効率配分を実現するための施策として、業務の高効率化、労働環境改善、超勤縮減とそれに対応する労働力の有効活用と合理的配分を図るため、有期職員制度創設と導入についてを検討していきます。
- ・2013年度教育課程移行に向けた準備作業、及び新事務体制の下での業務が順調に遂行されるための適正な人員配置を行うと共に、従来的人事制度の問題点を改善し、より納得性の高い制度の実現を目標に改正を図ります。

〈補足事項〉

P4からP13に掲載されている事業計画内容について、法人執行部及び本部事務部署にて行う計画のうち、「教育・研究・学術」に係る計画については【学院】、「経営・管理」に係る計画については【法人】と表記しています。

命題 数字	青山学 院が探 求すべき 命題	課題 数字	命題を構 成する柱 となる課 題	長期計画	中期計画	事業計画	該当部署	SQ
I	人間教育の再創造	[I]	キリスト教教育の促進	キリスト教教育の社会における実践	「共生委員会」を通じてグローバルな視点からこの世の様々な問題に目を向けるための啓蒙活動の展開及び新規プログラムの設置	岩手県立宮古高校(被災地の高校)との交流	高等部	1
						チャイルドファンドジャパン・フィリピン訪問プログラムへの参加	高等部	2
				キリスト教活動の見直しと充実	本多庸一先生召天後100周年記念事業	宗教センター	3	
				教職員対象の聖書研究・スモールグループの形成等方法論の確立	教職員聖書研究や祈りの会の実施	幼稚園	4	
		[II]	教育・研究の活性化と充実	新たな教育体制の確立と推進	高等学校の設立	実施計画検討委員会の設置及び実施計画策定の検討	法人執行部・総合企画部	5
				キャンパスコンセプトにもとづく教育研究体制の確立	キャンパス再開発にもとづく教育研究体制の整備	英語力向上プログラムの学内支援制度実施へ向けた、学内外の英語教育プログラムの実態に関する調査研究、及び検討	大学	6
				教育研究への情報通信技術の活用	情報通信システムの整備と安全な運用および情報管理・運用システム機能の強化	教育・研究環境の高度化と充実を図るための情報系組織の再編	次期ICT戦略策定委員会	7
				情報環境の充実と情報基礎教育の強化	学習教育支援センター(仮称)によるワンストップサービスの実現と情報基礎教育の強化準備	学習教育支援センター(仮称)の開設準備とキャンパス再配置への対応	次期ICT戦略策定委員会	8
		[III]	一貫教育の推進	一貫制英語教育の強化	SEED BOOK10-12 完成	SEED BOOK10 完成	高等部	9
				設置学校間の連携強化	短・大連携:編入学卒の発展的拡大	大学との単位互換制度実施検討	短大	10
					高大連携:高等部生の大学への授業の参加を可能とするシステムの構築	高等部生が大学の授業への参加を可能とするシステムを構築するための具体策検討	高等部	11
		[IV]	国際理解教育の推進	国際交流の強化	留学生1,000人構想(学部・大学院生を含めて在籍学生約20,000人の5%)の実現	大学院留学生増大のための広報活動、及び大学主催の語学研修の再検討、英語による語学研修実施の増加	大学	12
					海外の学校との交流の充実	英国イートン校との交流	高等部	13
II	環境の整備	[I]	キャンパスの整備	既存施設の整備	短大校舎の有効活用	学科改組による定員減に伴う空き教室数調査	短大	14
				安全と機能性を重視した施設環境の整備		施設の計画的整備の検討と実施	幼稚園	15
				青山キャンパス再開発	新図書館建設	基本設計に基づく実施設計の確定	法人執行部・総合企画部	16
					高等部校舎建て替え	第Ⅲ期体育館新築工事	高等部	17
						第Ⅲ期工事期間における校内及び校舎のセキュリティ対策と運用体制の作成	高等部	18
				中等部建て替え準備	新校舎の施設・設備等の検討	中等部	19	
				『青山学院150年史』(仮称)の発行		『青山学院150年史』(仮称)編纂委員会を立ち上げ、活動を開始する	資料センター	20
		歴史博物館相当施設設立の検討	2011年度に調査した博物館相当施設を設置するための条件に沿って、その準備をする	資料センター	21			

命題 数字	青山学 院が探 求すべき 命題	課題 数字	命題を構 成する柱 となる課 題	長期計画	中期計画	事業計画	該当部署	SQ		
II	環境の 整備	[II]	学生等への 支援	学生の教育・生活環境の改善	学生支援ネットワークの強化	学生意識調査にもとづく学生支援体制づくり	大学	22		
				進路・就職への支援	就職相談体制の強化	学生の自律した就職活動への支援体制の強化、及び専門資格を有した人材の確保による個別相談の充実と外部機関を活用した卒業生への相談体制の確立	大学	23		
					キャリア・ライフ・デザイン科目との連携	就職支援行事と新学科キャリア・ライフ・デザイン科目との連携検討	短大	24		
				経済的支援体制の確立	給付奨学金制度の充実	本学一般入試合格者の手続状況調査・他大学調査に基づく入試成績上位者への奨学金制度の確立	大学	25		
					経済的支援体制の確立として奨学金の充実を計る	初等部独自の奨学金制度を確立するための原資および体制の検討	初等部	26		
		[III]	教職員への 支援	研修活動の支援	専任教員の研修(内・外)の充実	他校との交流および外部研修の導入	初等部	27		
					表彰事由の充実	表彰制度取扱要項案の作成	人事部	28		
		III	戦略の 強化	[I]	ガバナンスの 強化	危機管理に関わる 様々な取り組みの 実践	大災害対策の整備	教職員の安否確認システム導入	総務部	29
								大学・短期大学緊急地震速報導入	総務部	30
							園児・児童・生徒・学生の学校内外安全確保	登下校最寄駅(渋谷および表参道)から各学校までの経路の安全性の検証と改善	総務部	31
コンプライアンス体制の確立と周知・実行・チェック	個人情報保護に係る体制の確立						総務部	32		
	避難訓練の実施と訓練内容充実のための検討						短大	33		
大学執行部の機能の充実	企画立案機能の強化						学長室の拡大と機能強化	大学	34	
[II]	財務力の 強化			コスト改善・改革の実践	業務の効率化と見直し	業務効率化に向けた問題点の洗い出しとその検証	法人執行部・総合企画部	35		
[III]	広報の充 実			効果的な 広報の実 践		大学広報体制の確立	大学戦略広報部門の設立(大学戦略企画と広報の充実)	大学	36	
							法人広報部が着手しているWebサイトリニューアルへの協力(受験生向けモバイルサイトの充実を含む)	大学	37	
						紙媒体等による保護者・卒業生に対する広報	初等部便りの発刊計画	初等部	38	
					「教育力」「就業力」等のブランドイメージの強化	教員の研究活動等に関するデータベースの充実と効果的な情報発信	大学HP掲載『専任教員紹介』と『研究者情報DB』の現行システムの検証及びより効果的な利用を促進するための方策の検討	大学	39	
						大学・短大の「就業力」と「教育力」のイメージアップに特化した広報の展開	就業力、教育力の情報収集、及びこれらに特化した外向けニュースの発信の強化	大学	40	
						海外向け広報の充実	大学案内のパンフレット更新、及び英文によるWEBの再作成	大学	41	
					教員による海外での広報活動	高等部	42			
						学校紹介DVD、学校案内及びHP等の見直し、刷新を図る	中等部	43		

命題 数字	青山学 院が探 求すべき 命題	課題 数字	命題を構 成する柱 となる課 題	長期計画	中期計画	事業計画	該当部署	SQ
III	戦略の強化	[IV]	入試の強化	受験生の量的・質的確保	地域的な志願者の掘り起こし	関東近県を中心とした入学志願者の掘り起こし	大学	44
					入試体制の整備	推薦入試制度の拡充(指定校対象校の検討、募集人員枠の拡大の検討)	大学	45
						提携校推薦制度の検討	大学	46
						一般入試制度の簡素化(方式・出題)	大学	47
						入試問題作成及び印刷方法の見直し	中等部	48
		[V]	生涯学習の充実	生涯学習支援体制の強化	オープンカレッジの充実	オープンカレッジの講座の拡充、及び開催時期の授業期間中実施への変更の検討	大学	49
		[VI]	校友との連携強化・愛校心の育成	卒業生との連携強化の検討による新たな制度の確立	ホームカミングデー制度の見直しと更なる内容の充実を図る	ジュビリー制度導入の検討	短大	50
					青山学院維持協力会の会員制組織、制度の充実	青山学院維持協力会の会員増加の施策	募金事業局	51
					愛校心の育成強化	後援会・くすのき会と連携した初等部OBIによる出張授業の実施	初等部	52
						各界で活躍する卒業生を招き、話を聞く	中等部	53
						緑窓会の日に、中等部生徒による各種発表を行う	中等部	54
						地方開催のペアレンツウィークエンドにおける校友会支部との連携促進	校友センター	55
						校友会ホームページ及び広報紙「あなたと青山学院」を再度見直し、校友に対する充実した広報の検討とその実施を図る	校友センター	56
					[VII]	組織の整備・業務の見直し	人事制度の見直し	適正人員にもとづく職員の適正配置
		適正人員と報酬体系の見直し	改正人事制度の段階的实施	人事部				58
			2013年度教育課程移行に伴う適正配置	人事部				59
		新組織の確立	青山キャンパス事務組織の再編と業務効率化	業務効率・コストの改善をふまえた事務組織再編の検討			法人執行部・改革推進本部	60

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World
【青山学院スクール・モットー】

学校法人青山学院 2012年度事業計画書 (2012年4月発行)

(問合せ先) 本部 総合企画部 03 (3409) 6384 内線 11338

※学院 HP からも PDF 形式にてご覧いただけます

<http://www.aoyamagakuin.jp/introduction/data/finance/index.html>
